

小・中学校と特別支援学校が連携して取り組む 特別支援教育の充実に関する研究

－特別支援学級におけるライフスキルを高める自立活動－

新学習指導要領では、特別支援学級で実施する特別の教育課程について自立活動を取り入れることが示された。特別支援教育の更なる充実を目指し、小・中学校と特別支援学校が連携し、特別支援学級におけるライフスキルの育成に向けた自立活動の指導について3年間の研究を進めた。「ライフスキルトレーニングプラン」を作成し、学校で実践した結果、児童生徒一人一人のライフスキルの高まりを実感できた。困難さの背景要因を捉えたプラン選択や実態に応じてプランを再構成する必要性に気付き、自立活動の指導を推進する一助になった。

<検索用キーワード> 特別支援教育 特別支援学級 特別支援学校 自立活動 ライフスキル
連携 センターの機能

研究協議会委員

瀬戸市立萩山小学校教諭	伊藤 安耶（平成30年度、令和元年度）
半田市立岩滑小学校教諭	岡本 一雄（平成30年度、令和元年度）
安城市立明祥中学校教諭	古畑 優太（平成30年度、令和元年度）
県立瀬戸つばき特別支援学校教諭	井田 亮平（平成30年度、令和元年度）
県立半田特別支援学校教諭	沢田健太郎（平成30年度、令和元年度）
県立安城特別支援学校教諭	杉山 賀子（平成30年度、令和元年度）
総合教育センター特別支援教育相談研究室長（現県立名古屋盲学校教頭）	奥田 優（平成29年度）
総合教育センター研究指導主事（現安城市立東山中学校教頭）	香村 直廣（平成29、30年度）
総合教育センター研究指導主事（現特別支援教育相談研究室長）	薬丸 貴之（平成29、30年度、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	伊藤 英治（平成29、30年度、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	山内 登志（平成29、30年度主務者、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	岩月 浩子（平成29、30年度、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	津田 博史（平成30年度、令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	稲吉 育美（令和元年度）
総合教育センター研究指導主事	倉知 利勝（平成29、30年度、令和元年度主務者）

1 はじめに

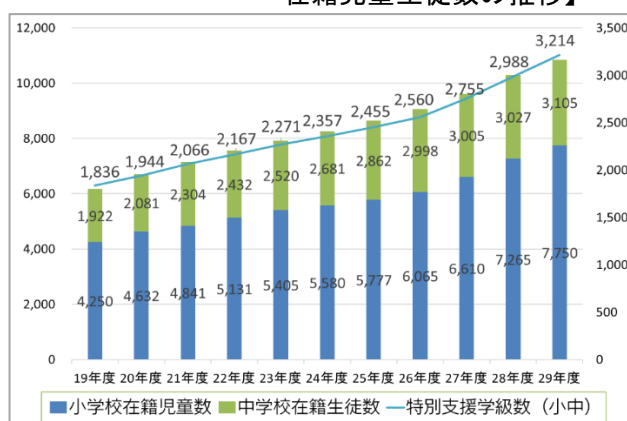
平成29年3月に告示された新学習指導要領では、特別支援学級において実施する特別の教育課程の編成に係る基本的な考え方の一つとして、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること」が新たに示された。

県内の小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加しており（資料１），児童生徒が自立と社会参加に向けて主体的に自己の力を発揮するには，日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対して，よりよく対処するために必要な能力「ライフスキル*」の育成が重要であり，自立活動の指導を通じて計画的にその力を育てていくことが必要である。

その際，特別支援学校のセンター的機能を活用し，小・中学校と特別支援学校がいっそう連携していくことで，自立活動の充実を図っていくことができると思う。

*世界保健機関は「ライフスキル」を，どの時代，どの文化社会においても，人間として生きていくために必要な力であり，日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して，より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力と定義している。ライフスキルには，(A)意思決定(B)問題解決(C)創造的思考(D)批判的思考(E)効果的コミュニケーション(F)対人関係スキル(G)自己認識(H)共感性(I)情動への対処(J)ストレス・コントロールの10項目がある。

【資料１ 愛知県の特別支援学級数と
在籍児童生徒数の推移】



出典：『愛知の特別支援教育』（愛知県教育委員会）

2 研究の目的

小・中学校と特別支援学校が連携し，特別支援学級におけるライフスキルの育成に向けた自立活動の指導について研究し，特別支援教育の充実を図る。

3 研究の方法

研究協力校（小学校2校，中学校1校，知的障害特別支援学校3校）代表委員と所員による共同研究で行う。

(1) 1年次（平成29年度）

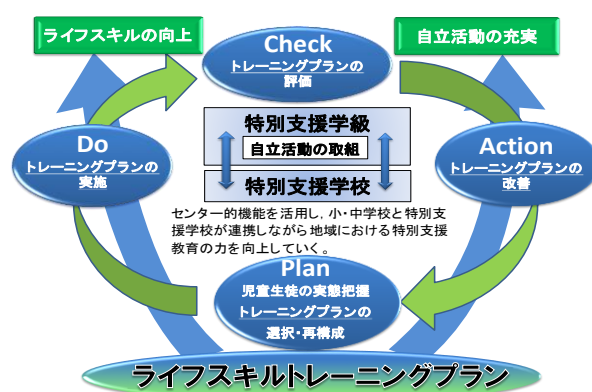
小・中学校の自立活動について現状と課題を整理し，特別支援学級における児童生徒のライフスキル育成に向けた自立活動の指導について検討する。

自立活動の指導における具体的な手だてとして「ライフスキルトレーニングプラン」を作成し，研究協力校の小・中学校と特別支援学校が連携して，計画（Plan）－実践（Do）－評価（Check）－改善（Action）の過程（資料2）で活用を進める方法を検討する。より円滑な活用を目指し，計画する際に使用する「ライフスキルトレーニングプランセレクトシート」，実施及び評価する際に使用する「ライフスキルトレーニングプラン記録シート」を合わせて作成する。

(2) 2・3年次（平成30年度，令和元年度）

小・中学校と特別支援学校の研究協力校代表委員が地域ごとにペアになって連携し，「ライフスキルトレーニングプラン」を活用した自立活動の実践を行う。そして，特別支援学級における効果的な自立活動の指導方法を明らかにする。

【資料2 連携を軸にしたプラン活用モデル】



4 研究の内容

(1) アンケート調査の実施と分析

ア 相談内容に関する調査

当センターで実施してきた特別支援教育相談のうち、過去3年間（約450ケース）の「指導・支援」に関する相談内容を、自立活動6区分の内容に照らし合わせて分類した（資料3）。「人間関係の形成に関すること」が38.5%と最も多く、「心理的な安定に関すること」が34.6%、「コミュニケーションに関すること」が14.1%となっている。

イ 自立活動の指導に関する調査

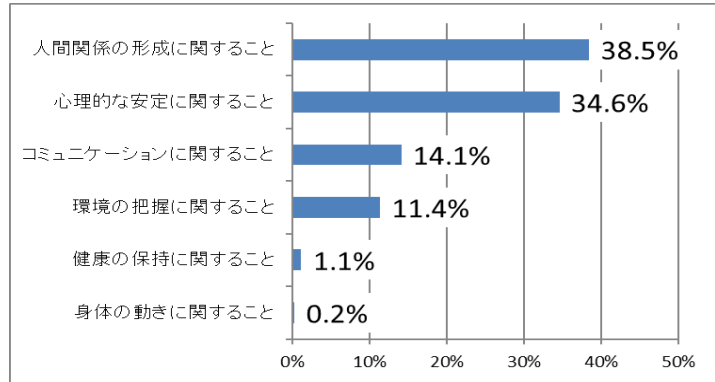
平成29年6月、県内の小・中学校245校に「特別支援学級における自立活動について」のアンケート調査を実施し、小学校368学級、中学校146学級から回答を得た。

自立活動の実施状況の調査結果（資料4）では、自立活動の指導場面は「教科等を合わせた指導の中で指導する」が39.3%、「時間を設定せず教育活動全体で指導する」が34.2%、「自立活動の時間を設定して指導する」が29.4%であった。

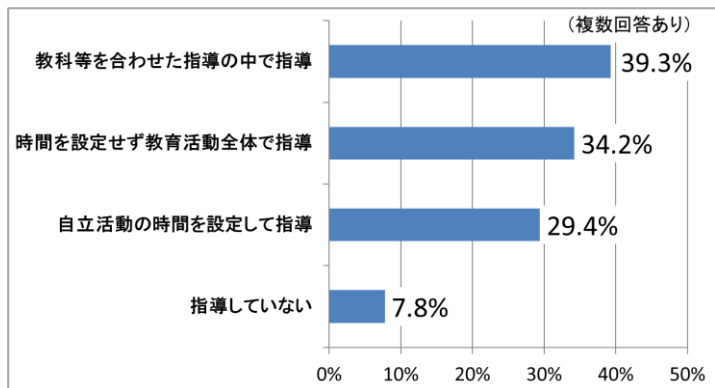
また、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級における自立活動の主な指導内容に関する調査結果（資料5）では、「コミュニケーションに関すること」が68.9%、「人間関係の形成に関すること」が66.3%と多く、次いで「心理的な安定に関すること」が44.3%となっている。当センターでの相談内容を分類した結果とも上位項目に重なりが見られ、多くの児童生徒の課題となっている。

自立活動を指導する上での困難さに関する調査結果（資料6）では、特別支援学級担当者の50%以上が「指導・支援方法が分からない」と回答しており、児童生徒一人一人の課題に対して、適切な指導・支援を行うことに困難さを感じている状況にある。

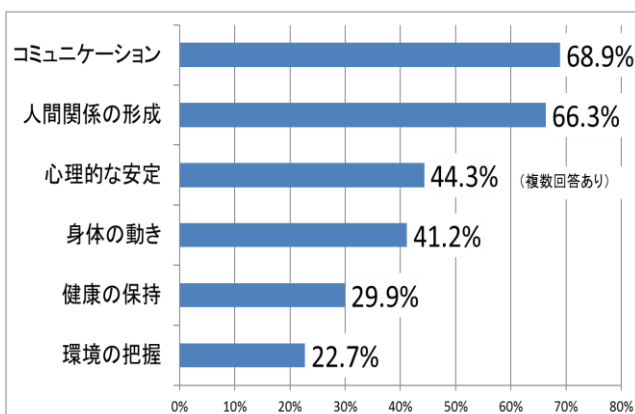
【資料3 相談内容と自立活動6区分との関連】



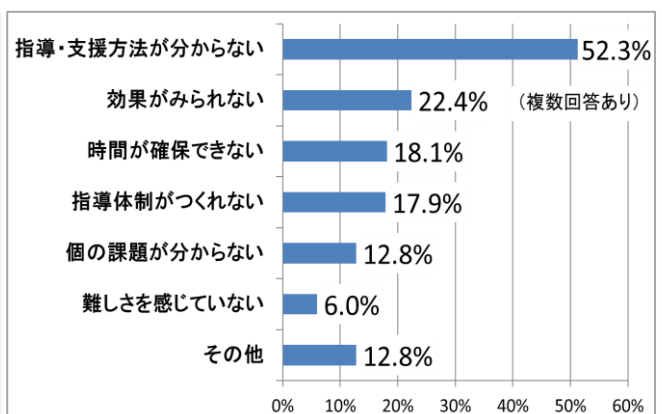
【資料4 自立活動の実施状況】



【資料5 特別支援学級での自立活動の指導内容】
（知的障害学級、自閉症・情緒障害学級）



【資料6 自立活動を指導する上での困難さ】
（特別支援学級全体）



(2) 自立活動での活用に向けた「ライフスキルトレーニングプラン」の作成

自立活動での活用に向けて、34のプランで構成される「ライフスキルトレーニングプラン」を作成した（資料7・8）。調査結果を基に、このプランでは「人間関係の形成に関すること」「心理的な安定に関すること」「コミュニケーションに関すること」を自立活動の内容として取り上げることとした。また、児童生徒の日常の気になる様子から導き出される課題が「自立活動6区分27項目」及び「ライフスキル10項目」のどの内容に関連しているかを明記している。指導者はプランが自立活動のどの内容を中心的に扱っているかに加え、どのようなライフスキルを育成していくかを確認できる。さらに、児童生徒が学習した内容について、別の学校生活場面でも実践できるよう「般化するためのポイント」を明記している。

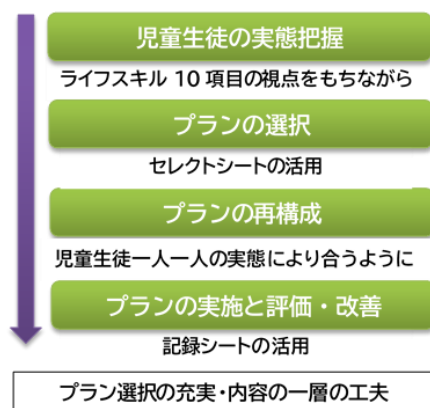
【資料7 ライフスキルトレーニングプラン一覧】 【資料8 ライフスキルトレーニングプランの一例】

番号	プランタイトル	番号	プランタイトル
①	これだけやって次をしよう	②	たくさんあるよ！私の長所
③	はい！キャプテン！！	④	あんしんワッペンでリラックス
⑤	好きな遊びを伝えよう・楽しもう	⑥	これはいいかな？いやかな？
⑦	気持ちを相手に伝えよう（断る）	⑧	うれしい言葉・かなしい言葉
⑨	友達づくり	⑩	気持ちを相手に伝えよう（謝る）
⑪	自分や友達のよいところを見つけよう	⑫	身だしなみチェック
⑬	状況に合わせたよいことを知ろう	⑭	あいさつをしよう
⑮	答えてみよう	⑯	あたたい言葉をかけよう
⑰	どうしてほしいのか考えてみよう	⑱	好きなものを伝え合おう
⑲	私のいいところ・得意なこと（マイプロフィール）	⑳	風船バレーをしよう
㉑	あなたは何番目？	㉒	聞かれたことに答えよう
㉓	質問名人 聞き名人	㉔	カラフル会話をしよう
㉕	お話名人	㉖	うなずいて話を聞こう
㉗	イライラ対処法	㉘	一人一色カラーリング（共同制作）
㉙	気持ちを言葉で表現しよう	㉚	さいころトーク
㉛	いいところ見つけ	㉜	目指せ5つ星の話し方
㉞	ボールを選ぼう	㉟	こんなときどうする？

タイトル ㉓		いいところ見つけ
目的・ねらい		友達のよいところに気付き、それを表現することができる。
自立活動	区分	6 コミュニケーション
	項目	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること
ライフスキル項目		C 創造的思考 E 効果的コミュニケーション F 対人関係スキル H 共感性
子どもの様子		・友達とのトラブルが目立つ。 ・他の人の気持ちや意図を理解することが難しい。 ・表情、身振りなどの非言語的なサインの理解や表出が難しい。
時 間		10～50分間
指導形態		小グループ
内 容		①友達ががんばっていたことを想起する。 ※帰りの会で一日を振り返るなど、テーマを絞った方が想起しやすい。 ②順番に発表する。 ※発表することが苦手な場合は、メモに書いてもよい。 ③聞き手は、発表した子どもとがんばった子どもに拍手する。 ※子どもごとにシートを作成し、メモを貼っていてもよい。 ④聞いた中で、心に残った話を発表し、共有する。
般化するためのポイント		・一日の活動を振り返る（帰りの会）など、子どもたちが友達のよいところに気付いたり、感謝をしたりする機会を設け、それを共有できるようにする。

「ライフスキルトレーニングプラン」を活用して指導する際は、プラン活用の手順（資料9）を進めていく。まず、児童生徒の日常の気になる様子（実態把握）から「ライフスキルトレーニングプランセレクトシート（以下：セレクトシート）」（資料10）を用いて関連する複数のトレーニングプランを選択する。「セレクトシート」は主に「注意集中、多動性・衝動性」「対人関係・社会性」「意欲・情緒」「話す・聞く」に関する日常の気になる様子からプラン選択につなげていくことができるようになっている。次に、児童生徒一人一人の実態に応じて実践可能なプランを絞り、より実態に合うように工夫しながらプラン内容を再構成し、自立活動の時間だけでなく学校生活のさまざまな場面で実施する。指導した結果は、「ライフスキルトレーニングプラン記録シート（以下：記録シート）」（資料11）を活用して記録していく。実施後は「記録シート」の記述を参照しながら評価・改善を重ね、プラン内容をいっそう工夫したり、他のプラン内容にも取り組んだりする。

【資料9 プラン活用の手順】



【資料 10 セレクトシート】

ライフスキルトレーニングプラン セレクトシート		
	日常の様子から	関連する トレーニングプラン番号
多 動 性 ・ 注 意 集 中 ・ 衝 動 性	他者の行動をまねたり、邪魔したりする	⑤、⑭
	順番を待つことが難しい	⑥、⑳、㉑
	自分の思いどおりにしようとしたり、自分の思いと違うと腹を立てたりする	⑥、㉑
	気が散ることが多い	㉑
	質問が終わる前に出し抜けに答えてしまう	⑧、㉑
対 人 関 係 ・ 社 会 性	次の活動へ切り替えることが難しい	①
	ルールを守ることが難しい	③、⑤、㉒、㉑、㉔
	誰かと一緒に活動することが難しい	③、④、㉒、㉓
	自分の意見を一方的に主張しすぎたり、意見があっても言わなかったりする	⑤
	自分の気持ちを適切に表現することが難しい	⑦、⑧、⑨、⑮、㉒、 ㉓、㉔
	友達とのトラブルが目立つ	⑧、⑨、⑮、㉒、㉓、 ㉔、㉕
	挨拶をしたり、感謝や謝罪の気持ちを言葉で伝えたりすることが難しい	⑨、⑩、⑭、㉒
	他者の目に自分がどう映っているかあまり気にしない	⑪、⑫
	こだわりが強く、自分の決めた通りに行動しないと気が済まない	③、⑬
	状況に合わせた適切な行動をとることが難しい	⑤、⑬、⑮、⑯、⑰、 ㉔
	他の人の気持ちや意図を理解することが難しい	⑮、⑰、㉒、㉓、㉕
	みんなと同じペースで行動することが難しい	㉒、㉑、㉓、㉕
	表情、身振りなどの非言語的なサインの理解や表出が難しい	⑥、⑭、㉒、㉕
	特定の事物に強い関心をもち	②、㉑
	興味や関心がありませんことについて、人と話すことが難しい	㉑
意 欲 ・ 情 緒	すぐにできないとあきらめてしまう	②、④
	緊張したり、不安になったりすることがある	④
	自信がない様子がよく見られる	⑪、⑰
話 す ・ 聞 く	聞かれたことに対して言葉がなかなか出ないことがある	㉒
	内容を分かりやすく伝えることが難しい	③、㉒、㉓
	自分が思いついたままに話するため、筋道の通った話をすることが難しい	㉒、㉓、㉔
	話をじっくり聞くことが難しい	③、⑨、㉒、㉓

【資料 11 記録シート記入例】

ライフスキルトレーニングプラン 記録シート記入例						
児童生徒氏名		児童A		記入者()		
子どもの気になる様子・課題(日常の様子から)			実施した ライフスキル トレーニングプラン	プラン 開始日	7月	12月
① ①			①	4月8日		
② ②			②	4		
③ ③			③	5		
④ ④			④	5		
<学校生活における困難さ> 非常に感じる・・・5 かなり感じる・・・4 やや感じる・・・3 あまり感じない・・・2 感じない・・・1						
日付/時間	教師の指導・支援 プランの実施等		子どもの様子		関連	
5月2日	① いいところ見つけ					
	C 創造的思考	3 人間関係の形成	・友達のよいところがなかなか思い浮かばず、いらいらする様子が見られた。具体的な場面を伝えたとこ ・よい言葉を思い出すことができた。 ・短い言葉で、友達のよいところをいくつか書くことができた。 ・友達の発表を見ていたため、見通しをもつことができた。 ・発表が近づくと、友達に対して乱暴な言動がみられた。 ・友達が発表した様子を見て、参考にできるよう3番目での発表とした。		①	
	E 効果的コミュニケーション	6 コミュニケーション			②	
	F 対人関係スキル				③	
授業	H 共感性				④	
5月8日	① いいところ見つけ					
	C 創造的思考	3 人間関係の形成	・筆箱の中身を拾うことに集中していたが、友達の様子を見るように声をかけると、友達と一緒に拾っていることに気付くことができた。 ・自分から感謝の言葉を言うことができた。		①	
	E 効果的コミュニケーション	6 コミュニケーション			②	
	F 対人関係スキル				③	
放課	H 共感性				④	
5月10日	① いいところ見つけ					
	C 創造的思考	3 人間関係の形成	・他の児童が児童Aのよいところを発表したことを思い出し、意欲的に取り組むことができた。 ・発表内容が事前に明確になっていたため、落ち着いて発表することができた。		①	
	E 効果的コミュニケーション	6 コミュニケーション			②	
	F 対人関係スキル				③	
帰りの会	H 共感性				④	

(3) 連携を軸にした代表委員による自立活動の実践

ア 「ライフスキルトレーニングプラン」を活用した自立活動の実践

研究協力校において、小・中学校の特別支援学級と同じ地域の知的障害特別支援学校が連携しながら自立活動の実践を行った。児童生徒一人一人の実態に合わせ、「セレクトシート」を用いて選択したプランの活動内容を再構成し、個別の指導目標を明確にして取り組むことができた。また、児童生徒の様子について「記録シート」に継続して記述し、行動等の変化を確認した。以下に、授業実践の概要を紹介する。

(ア) 瀬戸市立萩山小学校（連携校：県立瀬戸つばき特別支援学校）

「効果的コミュニケーション」や「情動への対処」に課題がある児童に対して、自立活動や交流及び共同学習などさまざまな活動場面で、他者の気持ちや意図を的確に理解する力を身に付けるための指導・支援を行った。その結果、周りの様子を確認しながら友達を手伝ったり、相手の状況や自分の言葉遣いに気を付けて友達とコミュニケーションをとったりする場面が増えた。

(イ) 半田市立岩滑小学校（連携校：県立半田特別支援学校）

「対人関係スキル」や「効果的コミュニケーション」に課題がある児童に対して、個別の課題を集団の活動に取り入れながら、自分や他者に対する理解を深め、対人関係を円滑にしていけるための指導・支援を行った。その結果、相手に聞こえる声で話せたり、友達と関わる中でいらいらしたときに気持ちをコントロールできたり、友達のよいところを伝えたりする場面が増えた。

(ウ) 安城市立明祥中学校（連携校：県立安城特別支援学校）

「効果的コミュニケーション」や「情動への対処」に課題がある生徒に対して、学校・家庭・福祉が

情報の引き継ぎや共有等の連携をしながら、自己理解を深め自分の思いを適切に表現するための指導・支援を行った。その結果、いらいらしたときに「休憩します」「大丈夫です」と伝えて気持ちを切り替えたり、家庭で落ち着いて課題に取り組めたりする場面が増えた。

イ 小・中学校と特別支援学校との連携

主に児童生徒の実態把握（目標の設定）と実施するプランの選択、児童生徒の実態に応じたプランの再構成に関する内容について、電話やメールで情報交換等を行った。更に特別支援学校代表委員が小・中学校を数回訪問し、実際に授業場면을観察することでプランの評価・改善につなげることができた。

このような連携を進めてきたことで、小・中学校代表委員は自立活動への理解が深まり、プランを再構成しながら自立活動の指導を計画し実践する力が高まった。特別支援学校代表委員は、自立活動の授業づくりを中心にした連携が効果的であることが分かり、特別支援学校のセンター的機能の一つとして新たな役割を果たすことができた。

5 研究のまとめと今後の課題

本研究では、ライフスキルの育成を目標に、自立活動での活用に向けた「ライフスキルトレーニングプラン」を作成し、活用方法を示すことができた。研究協力校の小・中学校と特別支援学校が連携し、特別支援学級においてプランを用いた自立活動の実践を行い、児童生徒一人一人のライフスキルの高まりを実感することができた。この実践から、プランを用いた自立活動の指導において、日常の気になる様子（困難さ）の背景要因を捉えたプラン選択の重要性、実態に応じてプランを再構成する必要性等の気づきを得ることができた。

本研究で作成したプランは、「人間関係の形成」「心理的な安定」「コミュニケーション」を自立活動の内容として主に取り上げている。今後は、児童生徒一人一人の多様なニーズにより対応していけるよう「健康の保持」「環境の把握」「身体の動き」に関する内容を含んだプランを新たに作成し、加えていくことでプラン全体を充実させてより多くの児童生徒に活用できるようにしたい。

6 おわりに

特別支援学級に在籍する児童生徒の増加とともに、通級による指導へのニーズも年々高まり、対象となる児童生徒数はこの10年で約4倍となっている。本研究の成果を発展させていくために、特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、通級指導教室を利用している通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対してもプランの活用を広げたい。活用の促進を図っていくことにより、小・中学校での自立活動において効果的な指導が実施され、特別支援教育の充実につながっていくと考える。

参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領・中学校学習指導要領」2017
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」2018
- ・古川勝也、一木薫「自立活動の理念と実践―実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス」ジアース教育新社、2016
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会（著）下山直人（監修）「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」ジアース教育新社、2018
- ・平岩幹男「発達障害児へのライフスキルトレーニング:LST」合同出版、2015
- ・梅永雄二「15歳までに始めたい！発達障害の子のライフスキル・トレーニング」講談社、2015